

大矢和憲の社会科（第4学年）研究計画

1 本研究の位置付け

私は、4学年の社会科において、地域における社会的事象（以下：事象）の追究を通して、**公共（よりよいまちづくり）の概念を獲得する子ども**を目指す。具体的には、「みんなの生活がよりよくなるように、公共機関や特別な活動をしている人だけではなく、地域みんな（自分を含めた一人一人）が、工夫や努力、協力をすることで、よりよい地域社会が形成される」という概念をとらえる姿である。この概念は社会生活における様々な事象に転移応用できる社会的な見方や考え方である。

社会科では、公的資質の基礎として、社会的な見方や考え方を養い、社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことが求められている。4学年の社会科では、主に、公共や、地域の人々の協力に関する学習を通して、様々な人々がよりよい社会にしようと工夫や努力、協力をしていることを学ぶ。このとき、特定の誰かが工夫や努力、協力をしていることを認識し、事象について理解するだけでなく、地域みんなの社会参画の様子や必要性に気づき、それらがよりよい地域社会の形成につながることをとらえることが、将来の主権者としての社会参画の資質や能力の基礎を培うことにつながる。

これまでの授業では、事象に携わる人々の工夫や努力、願いなどを追究し、事象についての理解を図ることを重視していた。

しかし、このような授業では、子どもが主体的に自分の社会生活について考え、地域社会の一員としての自覚をもつまでに至らないことが多かった。原因は、事象と地域みんなの生活とのかかわりをとらえさせたり、地域みんなの社会参画の様子や必要性に気付かせたりすることが弱かったことにある。社会参画の資質や能力の基礎を培うためには、事象に携わる人々のことだけでなく、事象と地域みんなとのかかわりや、地域みんなの社会参画について追究させることが必要である。

そこで、私は、よりよいまちづくりという視点で単元を構成し、地域みんなで工夫や努力、協力をしてよりよい社会を形成している（する必要がある）ことをとらえさせる授業を行う。

授業において重要な点は次の通りである。

- ① 子どもが、よりよいまちづくりについて追究する学習問題を設定できるように、地域みんなにかかわる事実（子どもの既存の認識にずれを生む事実）を提示すること。
- ② 子どもが、学習問題について、これまでの学習で得た認識や生活経験を想起しながら、（自分を含めた）様々な立場から多面的・多角的に事実とのかかわりを考えられるように、事象に関する原因や結果が分かる資料を提示すること。
- ③ 子どもが、学習問題について、様々な立場や方策を総合して考えられるように、よりよいまちにするために、一体誰がどうすればよいのか（どうしたのか）と、考えの結論を問うこと。

また、一連の学習過程で、子どもが思考を視覚化し、比較、関連付け、多面的・多角的に考えたり、総合して考えたりできるようにするための補助教材として、コア・マトリクス表を使わせる。このようにして、目指す姿を具現していく。

2 主張する働き掛け

子どもは、これまでの学習において、事象に携わる関係機関の働きや連携、地域の人々の活動や協力について学習している。子どもは、**関係機関や地域の人のおかげで、よりよい社会生活が成り立っている（C0）**ととらえている。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

地域社会の問題となっている事実、または問題が改善されている事実を提示し、これからみんなで考えたいことを問う。

よりよいまちづくりについて考えさせていくために、地域社会の問題となっている事実、または、問題が改善されている事実（子どもの既存の認識にずれを生む事実）を提示する。子どもは、取り上げた事実について、思っていたことが当てはまらなかったり、既存の認識ではうまく説明できなかったりして、「なぜそうなったのか」「どうしたらよいのか」などと驚きや疑問、問題意識を感じる。そのような子どもに、これからみんなで考えたいことを問う。子どもは、**比較するすべ**や**関係付けるすべ**を使って、既存の認識と、提示された事実とをつなぎ、「（～なのに、）なぜ～なのだろうか。どうしたら問題を解決できるのだろうか（どうやって問題を改善したのだろうか）」などと、よりよいまちづくりについて追究する学習問題を設定する。

働き掛け2

事実に関する原因や結果が分かる資料を提示し、資料から得られた情報を付箋紙に書かせ、コア・マトリクス表に整理して貼らせる。

根拠となる事実を明らかにして実証的に考えさせるために、「どのようなことが分かれば考えられそうか」と問う。子どもは、学習問題を解決するためには取り上げた事実に関する原因や結果が分かれば考えられそうだと考え、それらが分かる資料を求め。そのような子どもに、**事実に関する原因や結果が分かる資料（対象）**を提示し、まずは、資料から分かったことや考えたことを付箋紙に書かせる。子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、**これまでの学習で得た認識や生活経験（課題解決に必要な既存事項）**を想起しながら、**学習問題の解決につながる立場や方策（情報）**を見いだしていく。その後、小グループにコア・マトリクス表（情報の整理・分析を促し、比較・関連付け・総合して見たり考えたり、多面的・多角的に考えたりできるようにするため、また、思考を視覚化し、メタ認知させるための補助教材）を配付し、付箋紙を整理してマトリクス部分に貼らせる。子どもは、**分類するすべ**を用いて、立場や方策を視点に学習問題の解決につながる情報を整理する。

働き掛け3

一体誰がどうすればよいのか（どうしたのか）を問い、考えを交流させた後、学習問題についての結論を問う。

よりよいまちづくりについての結論を考えさせるために、まず、「一体誰がどうすればよいのか（どうしたのか）」と問い、考えを交流させる。立場と方策を問うことで、子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、**学習問題の解決につながる立場と方策（情報）**とをつなぎ、多面的・多角的に学習問題について考える。これらは子どもなりの考えや判断であり、一律にどれが正しいか考えさせることは重要でない。大切なのは、総合して考える思考を促し、考えの根幹にあたる公共の概念に気付かせていくことである。そこで、学習問題についての結論を問い、コア・マトリクス表のコアの部分に考え（結論）を記述、交流させる。子どもは、**関係付けるすべ**を使って、様々な立場と方策とを総合して考え、「地域みんな（自分を含めた一人一人）が工夫や努力、協力をすることで、よりよいまちになる」と、**よりよいまちにするための結論（課題解決に必要な情報）**を導き出す。

働き掛け4

取り上げた事実に関わるゲストティーチャーに出会わせる。

子どもが考えた結論の妥当性を確かめさせるために、取り上げた事実に関わるゲストティーチャーに出会わせる。子どもは、ゲストティーチャーの話聞き、自分たちが考えた結論の妥当性を確かめる。その後、学習問題について、大切なことと自分の考えを説明させる。子どもは**関係付けるすべ**を用いて、ゲストティーチャーの話（C0を想起させる話）と、自分たちが考えた**よりよいまちにするための結論（課題解決に必要な情報）**とをつないで再構成し、**公共（よりよいまちづくり）の概念を獲得する子ども（Cn）**になる。

さらに、日常的に「社会科学習日記」（宿題）を書かせていく。ここでは、どのように何を学んだのか、自分の学習過程と、考え方のコツを書かせるように指導する。こうすることで、子どもは、方法知としての社会的な見方や考え方をメタ認知し、以降の学習においても学び方や考え方を活用して学習していくようになる。

3 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、考えるすべを用いながら、既存事項を基に課題解決に必要な情報を収集・判断することができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、学びをつなぐ力を高めた姿になったか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け3を受けて、関係付けるすべを用いながら、学習問題の解決につながる立場と方策とを総合的につなぎ、よりよいまちにするための結論を考えることができたかどうかを、発言やコア・マトリクス表の記述から検証する。
- ② 働き掛け4を受けて、公共（よりよいまちづくり）の概念を獲得できたかどうかを、ワークシートの記述から検証する。

4 年間の授業計画

- (1) **指定研究授業**（7月） 「安全で安心なくらしとまちづくり（事故や事件を防ぐ）」（16時間）
- (2) **中間検討会**（9月） 「健康なくらしとまちづくり（ごみの処理）」（16時間）
- (3) **初等教育研究会**（2月） 「地域への願いとまちづくり（県内の特色ある地域）」（14時間）